

平成 23 年 3 月 25 日

杉並区立杉森中学校
校長 風見 章 殿

杉並区立杉森中学校学校関係者評価委員会

杉並区立杉森中学校 平成 22 年度 学校関係者評価

本学校関係者評価委員会は、日常的に学校運営協議会が学校教育の経営・運営に関わりを持って評価活動を行っている。これを基にして学校の自己評価を以下の観点にたって評価した。なお、本校においては杉並区教育委員会による教育調査（教員用）と学校自己評価（22 年度学校評価のまとめ）を参考にする。

- 〔観点〕
1. 自己評価の結果の内容が適切か。
 2. 自校評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切か。
 3. 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切か。
 4. 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か。

I 学校経営・運営（学校行事など全体的なもの）について

教育目標、学校経営・指導の重点等、基幹に関わる事項については、学校運営協議会（以下CS という）が承認していることもあり、学校の自己評価において高い評価を得ていることは、適格性をより高めている結果になっている。

年度当初にまとめられる『学校の教育目標、教職員組織表、4 月当初の予定表、入学式準備要項、及び年間予定表』や学年ごとにまとめられる『保護者会資料』は充実しており、信頼される学校経営・運営の基盤になっている。

CS で話し合われたことが、学校経営・運営に適切に反映されている。

体育大会・合唱コンクールのイベントから授業公開などにおける各行事を通じて、学校全体として組織的な活動が展開されている。これらは、全体として一つの方向性をもって進んでいる証左として評価できる。

校長のリーダーシップと調整機能が優れていること。力量ある教員によって各組織（分掌）が十分機能しているので生徒・学校全体に落ち着きがある。生活態度、学習態度が身につけて安定した学校運営が展開できている評価している。

学校全体の安定性ある評価の上に立って改善すべき事を挙げると

- ① 平成 22 年度教育調査（アンケート）において「徳育の推進」に対する教員の肯定率は 100% と高いが、実際にはいろいろな課題がある。学校評価アンケートデータ（平成 22 年度）で最も評価の低い項目は、「道德」の「自己評価は？」の 3.85 であり、各学校行事の評価（平成 22 年度）で最も評価の低い項目は、「道德地区公開講座」の 3.86 である。道德地区公開講座では、「参加者が少ない」という意見が出ているが、これは生徒が、道德の授業について家庭で話題にしないことが背景にあると思われる。「道德の時間」を月曜日の一時限目に置くなどの時間設定を見直し、各教科等、他の領域における道德教育との関連を図るなど、道德教育の在り方を見直す必要があると思われる。また、道德授業地区公開講座や授業公開週間における保護者の参観が少ない点。魅力あるテーマを設定をして 保護者会をもつなどの工夫があるとよい。
- ② 少人数授業体制における授業効果の検証がどのようになされているか。自己評価が十分に行われていない。この点は CS と PTA との話し合いの中でも出た点で、生徒・保護者にとって学校評価に高い関心のある中での、指摘なので改善の必要性がある。

- ③ 職場体験学習について自己評価意見の中に「目的意識がつかめず現実とのギャップを感じる。杉森中独自プログラムが許され、CSが方針を支持協力してくれるなら一番上を目指す」とある。疑問を感じつつ実施していることや、改善の意欲を読み取れることができる。しかし、この改善案が、学校全体の方針としてまとめられていないので、次年度に向けて早急に改善案を示す必要がある。
- ④ 食育に関しては、本校の特色ある教育活動の一つとされていて、年間指導計画を策定して取り組んでいるところであるが、教育調査での「食育の推進」（先生は、食べ物（栄養）と生活とのかわりについて、教えてください）に対する生徒の肯定率は67.3%にとどまっている。食育を栄養士任せにしていないかどうか、給食指導における食育など、日常の指導が適切に行われているかどうか、見直してみる必要がある。

II 分掌運営

(1) 教務関係

優れた主任を中心に複雑な選択授業、授業時数確保、年間行事予定の企画運営と学校運営の要としての役割を十分に果たしている。

改善すべき点を挙げれば、自己評価にもあるとおり全員参加や教科別研究授業の確保。また、本校における選択授業・少人数授業の効果、有用性の研究などが検討課題となる。

言語活動の充実については、意図的・計画的に教育課程内に位置づけないと、その実質化が進まないという面もあるので、各教科においても言語活動の充実について年間指導計画に位置付けるなどの工夫が望まれる。

(2) 生活指導・安全指導・部活動関係

- ① 生活指導面については服装自由の伝統継承やノーチャイムデーにあるように、生徒全体が自由と規律をよく体現していることは高く評価している。この評価の裏付けは優れた主任を中心に学年集団の結束。小さなことでも全員で取り組む姿勢・体制があればこそ、実現できていることで学校全体の安定性の基盤を醸成していると高く評価する。

改善すべき点を挙げると生徒のコミュニケーション能力、自己肯定感、自己意見発信力等の醸成が強く望まれる。自己評価項目に取り上げてほしい事項である。また、いじめ調査が実施されているが、その調査結果や実態をCSに報告する必要がある。

② 安全指導

中学生の自転車事故による被害者、加害者になることの問題から警察の協力の下、セーフテ教室の開催など時期を得た指導援助は評価する。

③ 部活動

部活動は特別活動における重要な分野であるので、指導体制の充実が望まれる。そこで、生徒会との話し合いでも希望があり、また自己評価にも指導顧問のバランスが指摘されており教員異動などで再編成、また外部指導員の活用などで改善が望まれる。また、生徒から希望のある活動時間の延長などの問題も丁寧な対応が望まれる。

(3) 進路・学習指導関係

① 進路指導

進路指導部を中心に学年進行にそって主として「総合的な学習」の時間において系統的に進められていることは評価できる。しかし、前述したように職場体験学習は杉森中学方式を考えていくことが重要である。

また、生徒・保護者にとっての高校進学先選択が直近の大きな関心事であるので1年次から十分な情報提供が望まれる。特に初めて高校進学を迎える者にとって風聞などに惑わされることなく、将来の進路を見据えた的確な進学先を選択されることが望まれるので、個別に丁寧な指導

を早い時期から行われることが望まれる。

② 学習指導

全体的に生徒の学習態度は良好で落ち着いた中で授業が行われている点は高い評価が得られている。反面、授業参観の折りに見られる光景として学級や指導教員によっては、授業参加ができない生徒や、十分機能していない授業が見受けられることもある。早いうちからの指導を徹底し解決する方策が望まれる。

教授方式について、プリント学習（単なる穴埋めの解答を求める）が主流になっている授業があるのは、再考する必要がある。ノートにまとめ、思考させ、自らの意見を述べるような「主体性のある」指導が望まれる。

夏季移動教室であるイングリッシュ・サマーキャンプは、3日間の英語合宿であるが、それに先立ち事前学習会が3日間、そして前日指導がある。入念な事前指導をして大きな成果をあげており、担当者・関係者の努力と熱意に敬意を表したい。

Ⅲ 施設・設備

用務担当（プラス株式会社）の活動、生徒の清掃活動が行き届いており、校内は常に整然として清潔に保持されている点は高く評価できる。

本校の懸案になっている北校舎4階特別教室（理科室・美術室）の空調設備が不整備になっている点については強く改善が求められる。

Ⅳ 校内組織

管理職と各分掌主任からなる企画調整会議が十分機能するためには、各分掌ごとの考えがまとめられ、分掌意見として企画調整会議に諮られ、そこで得られた結論が各分掌にフィードバックされ全体の意思統一へ収斂されていく過程を大事にしたい。これらが校内組織を編成する上で重要な点と考えるので常に改革と改善を図る必要がある。自己評価の上では特に改善などが見られないので常に改善の視点を見失わない事を望む。

Ⅴ 年度末、学校評価のまとめ

学校評価アンケートデータのまとめの評価項目は仔細になっており、表記の仕方、内容、グラフによる表記など工夫が見られ、学校全体の傾向がよく表わされているまとめ方になっている点は高く評価できる。

反面、14項目を8分掌（分担）によって、それぞれ問題点、改善策が示され記載されているが、評価者が求めている問題点の集約とそれに対する改善策が明確に打ち出されていない記となっているので改善を図って欲しい。次年度の学校運営、組織編成。教育課程へどのように活かせるのか見えるものにして欲しい。

おわりに

始めに述べた通り、学校運営協議会が日常的に評価活動を行っている。本校は平成19、20、21年度に第三者診断を含めて年度評価を実施して学校改善に成果を上げつつある。

今年度、学校関係者評価委員会という新たな制度としての評価となった。今年度の評価は観点Ⅰ～Ⅳを基に評価した結果である。